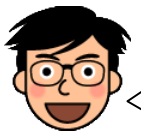
福岡県立高校入試問題を活用した学習資料
～ 未来への架け橋 ≪令和３年度版≫ ～



まずは自分で問題を解いてから、下の解説を読みましょう。解説には、□ 内に**解決する際のポイント**を示していますので、参考にして再挑戦してみましょう！

一　次の【文章】を読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

何か迷いが生じたときや、方向性を見失ったときなどは、自分の心の声に耳を傾ける必要があり、そのためには一人になれる時空をもたなければならない。

日常生活を振り返ってみればわかるように、だれかと一緒のときは、目の前にいる相手のことが気になって、自分の世界に沈潜することができない。つまり、思索にふけることができない。ＳＮＳでだれかとつながっているときも同様である。

常に人と群れていると、ものごとを自分の頭でじっくり考える習慣がなくなっていく。絶えず目の前の刺激に反応するといった行動様式が常態化し、じっくり考えることができなくなる。

発想を練るのは一人の時間にかぎる。周囲と遮断された状況でないと、思考活動に没頭できない。一人になると、自然に自分と向き合い、さまざまな思いが湧いてくる。一人の時間だからこそ見えてくるものがある。

こうしてみると、ＳＮＳの発達のせいで、どうしてもつながり依存に陥りがちだが、何としても一人でいられる力をつける必要があることがわかるだろう。

自分と向き合う静寂な時間が気づきを与えてくれる。どこかで感じている焦りの正体。毎日繰り返される日常への物足りなさ。どこか無理をしている自分。日頃見過ごしがちなこと。どこかに置き去りにしてきた大切なこと。そうしたことを教えてくれる心の声は、一人になって自分の中に沈潜しないと聞こえてこない。

今の時代、だれにも邪魔されない一人の時間をもつのは、非常に難しくなっている。電車に一人で乗っていても、家に一人でいても、ＳＮＳでメッセージが飛び込んでくる。そうすると気になり読まないわけにいかない。読めば反応せざるを得ない。そうすると、他の人がどんな反応をするかが気になる。自分の反応に対してどんな反応があるかが気になって落ちつかない。

スマートフォンで他の人たちの動向をチェックする合間に、手持ちぶさただからいろいろネット検索を楽しんだりして時間を潰す。そうしている間は、まったくの思考停止状態となり、自分の世界に没頭することなどできない。

人からのメッセージに反応する。飛び込んでくる情報に反応するだけで時が過ぎていく。

そんな受身の過ごし方をしていたら、当然のことながら自分を見失ってしまう。そんな状態から脱するには、思い切って接続を極力切断する必要がある。

外的刺激に反応するだけでなく、自らあれこれ思いをめぐらしたり、考えを深めたりして、自分の中に沈潜する時をもつようにする。外的刺激に翻弄されるのをやめて、自分の心の中に刺激を見つけるのである。

もちろん、そのために外的刺激を利用するのも有効だ。たとえば、読書の時間をもち、本に書かれた言葉や視点に刺激を受け、それによって心の中が活性化され、心の中をさまざまな言葉が飛び交う。そうした自らの内側から飛び出してきた言葉に刺激され、さらなる言葉が湧き出てくる。私たちの思考は言葉によって担われているため、それは思考の活性化を意味する。

外的刺激に反応するスタイルに馴染み過ぎてしまうと、スマートフォンやパソコンを媒介とした接続を遮断されると、何もすることがなくなった感じになり、退屈でたまらなくなる。そこで、すぐにまたネットを介したつながりを求めてしまう。

だが、外的刺激に反応するだけの受け身の生活から脱して、自分の世界に沈潜するには、あえて退屈な時間をもつことも必要なのではないか。　～略～

（榎本博明『「さみしさ」の力　孤独と自立の心理学』による。一部改変）

問三　本文中の　私たちの思考は言葉によって担われているため、それは思考の活性化を意味する　の説明として最も適当なものを、次の**1**～**4**から一つ選び、番号を書け。

やや難

1　人間は思考することで身に付けた言葉を用いて生活しているため、読書を通じて出会った新たな言葉を使って思考を深めることで、他者に対して説得力のある意見を主張することが可能になるということ。

2　人間は思考の手段として主に言葉を用いることがあるため、本に書かれた内容や表現を通じて感銘を受ける言葉に多く触れ、それらの言葉の力により豊かな感情を身に付けることが可能になるということ。

3　人間は思考の手段として言葉を用いるため、読書により他の思考を知ることで多くの刺激を受け、それ以前とは異なる視点から物事をとらえるようになり、より深く考察することが可能になるということ。

4　人間は思考を通じて新たな言葉を習得するという性質をもつため、読書によって新しい言葉を身に付けることは、意思疎通の手段が増えることを意味し、良好な人間関係を保つことが可能になるということ。

福岡県立高校入試問題の難しい問題にチャレンジしよう！【国語】①

次のように解きます。

① 何が問われているのかを確認する。
→「傍線部」について正しく説明しているものを選ぶ問題。

ポイント

まず、何が問われているかを確認することが大切です。
- 「理由」や「原因」 →「～なのはなぜか」
- 「説明」 →「とはどういうことか」 等

② 傍線部の内容を確認する。

- 「私たちの思考は言葉によって担われているため、それは思考の活性化を意味する」
  ①↑言葉の意味 ②↑指示語 ③↑キーワード

→ ①言葉の意味「担う」・・・（引き受ける、受け持つ、受け入れる 等）

②指示語「それ」・・・傍線部直前「～さらなる言葉が湧き出てくる。」

（ この問題では、指示語の内容確認が重要です！）

③キーワード「活性化」・・・「～心の中が活性化され、心の中をさまざまな言葉が飛び交う」
→活発になる様子

言い換え

思考は言葉に受け持たれているので、自分の心の中から
飛び出した言葉に刺激されて、さらに言葉が湧き出てくるのは、
思考が活発になることを意味する・・・・・・近い内容の選択肢は？

ポイント

傍線部の内容を、自分なりに「言い換えて」みましょう。

③ 選択肢の文章を区切って考え、傍線部の内容に合わない部分を確認する。

→**1**： 思考することで身に付けた言葉 ×
読書を通じで出会った新たな言葉を使って ×
他者に対して説得力のある意見を主張することが可能 ×

2：手段として主に言葉を用いることがある ×
豊かな感情を身に付けることが可能 ×

4：思考を通じて新たな言葉を習得する ×
良好な人間関係を保つことが可能 ×

⇒ 3

ポイント

本文の内容と明らかな違いがあるものや、本文の内容に無いもの等を削除しながら考えます。

二

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

【ここまでのあらすじ】小学校五年生の少年は、入院した母のお見舞いにバスで行くようになった。初めて一人で乗ったバスで、整理券の出し方を運転手の河野さんに叱られて以来、少年は河野さんのバスに乗るのが怖くなった。回数券を買い足す日、少年が乗ったバスの運転手は河野さんだった。少年は、嫌だ、運が悪いと思ったが、買い方を注意されながらも、どうにか回数券三冊を購入した。

買い足した回数券の三冊目が――もうすぐ終わる。

最後から二枚目の回数券を――今日、使った。あとは表紙を兼ねた十二枚目の券だけだ。

明日からお小遣いでバスに乗ることにした。毎月のお小遣いは千円だから、あとしばらくはだいじょうぶだろう。

ところが、迎えに来てくれるはずの父から、病院のナースステーションに電話が入った。

「今日はどうしても抜けられない仕事が入っちゃったから、一人でバスで帰って、って」

看護師さんから伝言を聞くと、泣きだしそうになってしまった。今日は財布を持って来ていない。回数券を使わなければ、家に帰れない。

母の前では涙をこらえた。病院前のバス停のベンチに座っているときも、必死に唇を噛んで我慢した。【A】でも、バスに乗り込み、最初は混み合っていた車内が少しずつ空いてくると、急に悲しみが胸に込み上げてきた。シートに座る。【B】座ったままうずくまるような格好で泣いた。バスの重いエンジンの音に紛らせて、うめき声を漏らしながら泣きじゃくった。【C】

『本町一丁目』が近づいてきた。【D】顔を上げると、他の客は誰もいなかった。降車ボタンを押して、手の甲で涙をぬぐいながら席を立ち、ポケットから回数券の最後の一枚を取り出した。【E】

バスが停まる。運賃箱の前まで来ると、運転手が河野さんだと気づいた。それでまた、悲しみがつのった。こんなひとに最後の回数券を渡したくない。

整理券を運賃箱に先に入れ、回数券をつづけて入れようとしたとき、とうとう泣き声が出てしまった。

「どうした？」と河野さんが訊いた。「なんで泣いてるの？」――ぶっきらぼうではない言い方をされたのは初めてだったから、逆に涙が止まらなくなってしまった。

「財布、落としちゃったのか？」

泣きながらかぶりを振って、回数券を見せた。

じゃあ早く入れなさい――とは、言われなかった。

河野さんは「どうした？」ともう一度訊いた。

その声にすうっと手を引かれるように、少年は嗚咽交じりに、回数券を使いたくないんだと伝えた。母のこともしゃべった。新しい回数券を買うと、そのぶん、母の退院の日が遠ざかってしまう。ごめんなさい、ごめんなさい、と手の甲で目元を覆った。この回数券、ぼくにください、と言った。

河野さんはなにも言わなかった。かわりに、小銭が運賃箱に落ちる音が聞こえた。目元から手の甲をはずすと、整理券と一緒に百二十円、箱に入っていた。

もう前に向き直っていた河野さんは、少年を振り向かずに、「早く降りて」と言った。「次のバス停でお客さんが待ってるんだから、早く」――声はまた、ぶっきらぼうになっていた。

次の日から、少年はお小遣いでバスに乗った。お金がなくなるか、「回数券まだあるのか？」と父に訊かれるまでは知らん顔しているつもりだったが、その心配は要らなかった。

三日目に病室に入ると、母はベットに起き上がって、父と笑いながらしゃべっていた。会社を抜けてきたという父は、少年を振り向いてうれしそうに言った。

「お母さん、あさって退院だぞ」

退院の日、母は看護師さんから花束をもらった。車で少年と一緒に迎えに来た父も、大きな花束をプレゼントした。

帰り道、「ぼく、バスで帰っていい？」と訊くと、両親はきょとんとした顔になったが、「病院からバスに乗るのもこれで最後だもんなあ」「よくがんばったよね、寂しかったでしょ？ありがとう」と笑って許してくれた。

「帰り、ひょっとしたら、ちょっと遅くなるかもしれないけど、いい？いいでしょ？ね、いいでしょ？」

両手で拝んで頼むと、母は「晩ごはんまでには帰ってきなさいよ」とうなずき、父は「そうだぞ、今夜はお寿司とるからな、パーティーだぞ」と笑った。

バス停に立って、河野さんの運転するバスが来るのを待った。バスが停まると、降り口のドアに駆け寄って、その場でジャンプしながら運転席の様子を確かめる。

何便もやり過ごして、陽が暮れてきて、やっぱりだめかなあ、とあきらめかけた頃――やっと河野さんのバスが来た。

車内は混み合っていたので、走っているときに河野さんに近づくことはできなかった。それでもいい。通路を歩くのはバスが停まってから。整理券は丸めてはいけない。

次は本町一丁目、本町一丁目……とアナウンスが聞こえると、降車ボタンを押した。ゆっくりと、人差し指をピンと伸ばして。

バスが停まる。通路を進む。河野さんはいつものように不機嫌な様子で運賃箱を横目で見ていた。

目は合わない。それがちょっと残念で、でも河野さんはいつもこうなんだもんな、と思い直して、整理券と回数券の最後の一枚を入れた。

降りるときには早くしなければいけない。順番を待っているひともいるし、次のバス停で待っているひともいる。

だから、少年はなにも言わない。回数券に書いた「ありがとうございました」にあとで気づいてくれるかな、気づいてくれるといいな、と思いながら、ステップを下りた。

バスが走り去ったあと、空を見上げた。西のほうに陽が残っていた。どこかから聞こえる「ごはんできたよお」のお母さんの声に応えるように、少年は歩きだす。

何歩か進んで振り向くと、車内灯の明かりがついたバスが通りの先に小さく見えた。やがてバスは交差点をゆっくりと曲がって、消えた。

（重松清『バスに乗って』による。一部改変）

福岡県立高校入試問題の難しい問題にチャレンジしよう！【国語】②

問四　次の［　］は、本文を読んだ池田さんと中川さんと先生が、少年の心情について会話をしている場面である。

やや難

（3）［ウ］に入る内容を、二十五字以上、三十五字以内で考えて書け。ただし、**母**、**河野さん**という二つの語句を必ず使うこと。

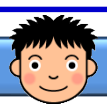
池田さん　「帰り、ひょっとしたら、ちょっと遅くなるかもしれない」という会話や、「両手で拝んで頼む」という行動から、河野さんのバスに乗りたいという少年の思いが読み取れるよ。河野さんのバスに乗るのを嫌だと思っていたのにね。

中川さん　そうだね。［ア］かもしれないことに対する少年の不安や悲しみの思いを受け止め、回数券を使わなくていいようにしてくれた河野さんに、少年は［イ］の気持ちを伝えたかったんだろうな。

池田さん　そうだよね。少年は［イ］の気持ちを回数券に書いて伝えることも、河野さんから言われたことを守ってバスに乗ることもできて、「バスが走り去った後、空を見上げた」時は、大きな達成感を味わっていたと思うな。

中川さん　そのほかにも、「何歩か進んで振り向くと、車内灯の明かりがついたバスが通りの先に小さく見えた。やがてバスは交差点をゆっくりと曲がって、消えた。」という二文に描き出されている、見えなくなるまでバスを見送る少年の姿から、［ウ］ことに一抹の寂しさを感じていることも読み取れるよね。

先生　描写に着目して、少年の心情をしっかりととらえることができていますね。



次のように解きます。

① 問の内容と答え方の条件を確認する。
- 少年の「心情」（一抹の寂しさ）について考えて答える問題。
- 用いる語句（母、河野さん）と字数制限（２５～３５字）の確認。

ポイント
答え方の条件は問題を解く時のヒントになります。
主人公の「少年」と、「母」・「河野さん」との関係を整理してみよう。
「母」…入院中。少年はバスに乗ってお見舞いに行っていた。退院できた。
「河野さん」…バスの運転手。

② 「少年」が「一抹の寂しさ」を感じた理由について考える。

- 「**相手**」…波線部「何歩か進んで振り向くと　～　やがてバスは交差点をゆっくりと曲がって、消えた。」

  →「バス」を見送っている　＝　**「河野さん」を見送っている**

- 「**内容**」…本文中の **河野さんのバスに乗りたい** という心情を表す描写

  →母は退院したので、明日からバスには乗らない

⇒ 母のお見舞いのために河野さんが運転するバスに乗るのも今日で最後になる

ポイント
会話文の中の前後の文章や答え方の条件に合うように、考えて書こう。

三　次は、『浮世物語』という本にある話【Ａ】と、その現代語訳【Ｂ】である。これらを読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

【Ａ】

自慢するは下手芸といふ事

今はむかし、物ごと自慢くさきは未練のゆへなり。物の上手の上からは、すこしも自慢はせぬ事なり。我より手上の者ども、広き天下にいかほどもあるなり。ある者、座敷をたてて絵を描かする。白さぎの一色を望む。絵描き、「心えたり」とて焼筆をあつる。亭主のいはく、「いづれも良ささうなれども、この白さぎの飛びあがりたる、羽づかいがかやうでは、飛ばれまい」といふ。絵描きのいはく、「いやいやこの飛びやうが一番の出来物ぢや」といふうちに、本の白さぎが四五羽うちつれて飛ぶ。亭主これを見て、「あれ見給へ。あのやうに描きたいものぢや」といへば、絵描きこれを見て、「いやいやあの羽づかいではあつてこそ、それがしが描いたやうには、え飛ぶまい」といふた。

（注）焼筆…柳などの細長い木の端を焼きこがして作った筆。絵師が下絵を描くのに用いる。

（『新編日本古典文学全集64　仮名草子集』による。一部改変）

【Ｂ】

自慢をするのは芸が未熟だという事

今となれば昔のことだが、どんなことでもやたらに自慢したがるのは、未熟な者のすることだ。［　　］は、何事においても少しも自慢したりしないものだ。それは、自分より技量のすぐれた者が、この広い天下にいくらでもいることを知っているからだ。

ある人が座敷を作って襖に絵を描かせた。白さぎだけを描いて仕上げるように注文した。絵かきは「承知しました」と言って、焼筆で下絵を描いた。それを見て主人が、「どれも一見よくできているようだが、この白さぎが飛び上がっている、こんな羽の使い方では飛ぶことはできないだろう」と言った。絵かきはもったいぶったようすで、「いやいや、この飛び方が、この絵のもっともすばらしいところなのだ」と言っている最中に、本当の白さぎが四、五羽、群がって飛んで行った。主人はこれを見て、「あれを見てください。あんなふうに描いてもらいたいものだ」と言うと、絵かきもこれを見て、「いやいや、あの羽の使い方では、私が描いたように飛ぶことはできないだろう」と言った。

やや難

問四　次の［　　］の中は、【Ａ】と【Ｂ】を読んだ青木さんと小島さんと先生が、会話をしている場面である。

先生　この話の主人公である絵かきのどんな点が「下手芸」なのか話し合ってみましょう。
青木さん　私は、絵についての主人の感想に対して、「この飛びやうが一番の出来物ぢや」と言って、［ア］点が「下手芸」であると思います。
小島さん　私は、実物を参考にせず「あの羽づかひであつてこそ、それがしが描いたやうには、え飛ぶまい」と言い張って、［イ］点も「下手芸」であると思います。
青木さん　なるほど。どちらにしても絵かきの［ウ］心している点が「下手芸」であるということができますね。
小島さん　そうか。だから、絵かきは、自分よりすぐれた人が世の中にはたくさんいることに気付くことができないのですね。
先生　二人とも、絵かきの「下手芸」な点についてよく考えることができましたね。

（１）［ア］、［イ］に入る内容を、十字以上、十五字以内の現代語でそれぞれ考えて書け。ただし、［ア］には**他人**、［イ］には**自分**という語句を必ず使うこと。

福岡県立高校入試問題の難しい問題にチャレンジしよう！【国語】③

次のように解きます。

① ［　ア　］、［　イ　］の前後の文や問の内容を確認する。

- 主人公（絵かき）の人物像について、自分で考えて答える問題。
- 用いる語句（他人、自分）と字数制限の確認。

② 波線部に表れている「絵かきの姿」を捉える。

ア　「この飛びやうが一番の出来物ぢや」

主人
【主人の絵に対する「感想」・「評価」】
こんな羽の使い方では飛ぶことはできないだろう

「他人」

受け入れない、認めない

絵かき
この飛び方がこの絵の一番すばらしいところだ
（→自分の描いた絵がよい）

イ　「あの羽づかひであつてこそ、それがしが描いたようには、え飛ぶまい」

本物の白さぎが四、五羽飛んで行った姿

主人
あれ を見てください。あんなふうに描いてもらいたいものだ

本物との違いに気付かない・未熟

絵かき
あの 羽の使い方では、
私が描いたように飛ぶことはできないだろう

「自分」

ポイント

古典では、主語や述語、助詞が省略されることがあります。
意味が分かる語句を手がかりにして、つないで読むことが大切です。
現代語訳【　B　】や（　注　）を参考にして、「誰が、何を、どうした」かを確認しながら読みましょう。

③ 絵かきの人物像について書く。

［　ア　］ ⇒ （例） 他人の評価を受け入れない

［　イ　］ ⇒ （例） 自分の未熟さに気付かない

- 「他人」、「自分」
- 字数制限
- 「～点」につなげる

ポイント

会話文の中の前後の文章や答え方の条件に合うように考えて書こう。